

# パーキンソン病用歩行改善訓練装置の試み

眞殿 浩之、大西 泰介、剣持 悟  
〔川村義肢株式会社〕

安東 範明  
〔国立療養所西奈良病院 神経内科〕

---

一般にパーキンソン病履患者の特徴としては、全身に微細な動揺があり、歩行時に歩幅の縮小による歩行速度の減少や前方突進などが見られる。自己のペースでの運動は困難であるが外発性の運動は可能で、何らかの目標を与えて指導すれば歩幅の拡大が期待できることが知られている。我々はこの特徴に着目し、遊脚足の踵接地に対して立脚足に取り付けたレーザーラインから目標位置へラインを照射できる装置を考案、製作し、臨床にて計測を行なった。その結果、本装置を取り付けた靴型装具を装着し、訓練を行なった全ての症例において最大200mmを超える歩幅の拡大と、それに伴う歩行速度の増加が見られた。本装置は靴型装具に取り付けることで、研究室内だけでなく自宅等での訓練も可能であり、パーキンソン病のリハビリテーションにおける新たなアプローチとして期待できる。